

大阪大学臨床医工学融合研究教育センター(MEI)センター  
グローバルCOE「医・工・情報学の融合による予測医学基盤創成」  
—*in silico medicine* を指向したオーブンプラットフォームの構築—

---

グローバルCOEプログラム

■ 海外国際会議渡航報告書 ■

- 報告者 ■ 吉川 舞
- 所属 ■ 薬学研究科
- 学年 ■ 博士後期課程 3年
- 渡航目的 ■ 10th HUPO World Congress において成果公表を行う
- 国際会議名 ■ 10th HUPO World Congress
- 渡航先 ■ スイス・ジュネーブ
- 渡航期間 ■ 2011年9月2日～9月9日

■ 論文タイトル ■

Modifying the antigen-immunization schedule improves the variety of monoclonal antibodies obtained from immune-phage antibody libraries against HIV-1 NEF and VIF.

■ 報告 ■

私は9月3日-7日にスイス、ジュネーブで開催されました 10th HUPO World Congress に参加させて頂きました。国際学会としては比較的小規模の学会でありながらも、プロテオーム研究の第一人者が集う学会であり、本領域における最先端の研究に触れることができました。特に近年、癌や HIV などの難治性疾患の治療においては、疾患に関連する細胞だけに発現し、正常細胞には発現していない優れた治療標的の探索が急務とされている中、そのような標的を簡便かつ迅速に単離可能な革新的な技術についての発表が多数なされていたのには大変感銘を受けました。

私は学会 2 日目と 4 日目にポスターを用いた成果公表を行いました。私はこれまで gCOE

(予測医学基盤 COE)の薬物動態研究プロジェクトに参画し、治療標的のみに効率よく薬物を送達可能な「モノクローナル抗体」の探索を行ってきました。本学会では HIV の感染と増殖に深く関連するタンパク質を標的にした HIV 治療用抗体の単離に関する報告を行いました。英語でのディスカッションではやはり自分の考えを正確に相手に伝えることは難しく、悔しい思いもしましたが、絵や文字をノートに書いて説明するなど工夫することで、自らの研究の面白さを一生懸命伝えました。また、同じくポスターセッションで発表する大学院生の発表を聞きそれについてディスカッションすることもできました。プロテオミクス研究という同じフィールドで研究を行う世界の研究者の発表を聞き、共にディスカッションできたことは大変貴重な経験でした。

今後は、今回の海外派遣の経験をもとに、英語でのコミュニケーション能力の向上、自らの研究の更なる発展につとめていきたいと考えています。このような貴重な体験をさせていただいた私の指導者の先生方、またご支援を頂きました MEI センターの先生方に深く御礼申し上げます。

